

## 令和5年度第2回田村市環境審議会会議録

○日 時 令和5年12月22日（金曜日） 9：00～10：45

○会 場 田村市役所304会議室

○出席者 委員10名

樋口 良之会長、佐久間 敏晴委員、山口 則文委員、吉田 隆昌委員、  
目黒 幹浩委員、松崎 一男委員、橋本 利重委員、  
助川 庄藏副会長、勝山 律子委員、吉田 勇委員

○欠席者 委員3名

佐藤 健一委員、先崎 正治委員、本田 良子委員

○事務局 職員5名（委託業者3名）

### 審議会次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 審議事項 議長：樋口良之会長

(1) 一般廃棄物処理基本計画（案）

(2) その他

### ○意見・質問

委 員 この計画を見たが、計画というよりも分析結果と感じた。計画そのものが、何をやってるのかよくわからない感じである。例えばこの計画、ごみ処理編と生活排水編、計画の表紙の段階で二編に分かれているのはわかりにくいと思う。  
ごみ処理編は、1章から5章までであるが、基本的に1章は根拠文書、2・3・4章は分析、5章は計画だが、計画が検討するとかであり、計画は作ったらそれを実行すべきことで、検討するとかでは計画ではないと思う。  
また、市民のアンケートをとった分析があるが、その分析が、この2・3・4章のどこに入っているのかわからない。地域の概況、自然的概況、社会的概況があるが、ただ単に言えば、山がある、川がある、人口が減少しているというだけである。計画の具体的システムがよく分からないと思う。4年度から12年度まで全部予測値でやっているが、その予測値は途中でその目標を達成しているか、中間分析することがどこにも載っていない。また、用語の定義だが、たむらクリーンセンターは東部環境センターから名前が変わっているが、変更されたことがきちんと明記されていない。  
予算の経緯、経費の関係、それから業者の関係、それを調整した結果を基本計画とするべきであって、検討するのは計画にならないと思う。この本文を見ただけで、

分析が多すぎる。5章も具体性に欠ける。

議長 整理すると、一番本質的なところは、分析ばかりじゃないかと。これは、行政とかコンサルが長く、他の地方公共団体の事例を勉強しすぎているからそうなる話だと思う。他の地方公共団体もほとんど同じようなことで、委員の指摘は、おそらく日本中に共通していて、かつ日本中が同じ悩みを持っていると思う。より現実的な検討は考えないといけないが、本質的に非常に重いので、軽いところから整理させてもらう。

まず、目次を見たとき、ごみ処理編で後の生活排水処理編がわからないと、その通りだと思う。例えば福島県の子な市を見ると、第1章で基本的事項、第2章で地域の概況、第3章でごみ処理、第4章で生活排水と書いてるパターンが多いので、その方がわかりやすいと思う。どうしても二つに分けたいということであれば、一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理)という表紙で作って、(生活排水処理編)と二つ全く別な書類として作っていることが多いので、わかりやすいようにしてほしいと思う。

また、名称については、混乱するので、用語はきちんと最初に施設の変遷について書いてほしいと思う。

それから、途中までやってうまくいかなかったとき、そのままダラダラやって10年間というよりは、再検討するっていうのをきちんと文書で入れてやるべきだというのは当然のことのように思ったが、実はそのようなことをきちんと書いてるところはなくて、最先端だと思う。ぜひ、そうしたらどうか。田村市は、いろんな意味で最先端を行っていると思うので。第5章の内容について、何か事務局の方でコメントをもらえないか。

事務局 「やります」と行政事務の側から書いてしまうことは、議会や予算があるため不向きである。環境審議会でこういう課題があったので、今後制度の改正に向けてプランニングする話が当然ステップとしてあるので、計画書の中でやることを検討するという表現になってしまう。

議長 少し補足させてもらう。そもそもこの処理基本計画ってどんなものなのかというと、処理を基本的に計画するところである。ところがそこに目標と書いてある。本来であれば、もっと市の振興計画とかで、ごみ処理はこういうふうな処理場にする、こういう仕様にするときちんと言って、そこから落とし込まれて、そのごみ量を処理するためには、今の施設でいいのかとか、できるとか、いやできないから改善するとかいうことを書くのだから、実はほとんどの市町村が上位でそういうことをきちんと決めていないので、処理基本計画のところで、何と目標をうたっている。それが結構きつところである。だが、各市町村とも、どこにも書く

ところがないからこの基本計画の中で、思い切って目標を書いていると。多分目標を書くことは、担当課としてはこんなこと書いて良いのか、でも審議会で協議して決めた目標値だからまあいいだろうと思ってると思うが、本当は市できちんと検討しないとイケない目標値である。というところがあって、そういう書きぶりしかないのかなと。

事務局 環境省が一般廃棄物処理基本計画策定指針というガイドラインを出している。ガイドライン通りの構成で作ると、大抵他の自治体も同じような話になって、分析ばかりじゃないかと。計画というのがさらっと書いて終わり、これは何なのという話は、結局環境省の指針が分析の部分を重視しているというのは一つの理由としてある。

委員 例えば、生活排水の計画だが、この編がこれ1ページだけですむ。具体的に達成する方策が、前提が、説明資料がないということになってしまう。田村市はどうすべきなのかという話である。環境省、国、県で根拠となる文章はあるが、それに載ってないところは、田村市が考えて良いと思う。載ってない技術、方法があると思う。目標だけ書いて、その目標を達成するための方策を書かなかつたら計画にはならない。

事務局 例えば、生活排水処理率 80%にするとスローガンに対して、浄化槽の転換や公共下水道に繋げるのは市民の方である。その市民の方の判断に基づいて数字を上げていく話なので、行政としては働きかけだったり、補助制度だったり、それ以上のことができない。あくまで、その達成の目標としてこういうことをやるいうことはあるが、掘り下げは確かにできてないかなと思う。アンケートの内容もそこまで掘り下げていないのと、その部分のターゲットも無作為抽出では難しいこともあるので、この計画では掘り下げられなかったところである。

ごみの方では、生ごみの水切りをしようとか、排水に油を流さないようにしようということは、前の計画からずっと呼び掛けている。そうすると、政策の効果って何なのかと。市民が、それをやり始めて改善するという政策に対して、効果のフィードバックが全くない。具体的なバックグラウンドの数字が追いかけれないので、どうしてもスローガンになってしまう。追いかけれない現実があるため、このようになってしまう。

また、政策の評価で、1人1日当たりのごみ排出量計画目標が、あまりに厳しい目標である。令和4年度の間目標718g/人・日ですら達成してないのに、このまま目標を見直しせずに、令和12年度に600g/人・日が達成できるのか。検討する側として、田村広域行政組合の解散などいろいろと諸事情が変わったこともあるが、市民の皆様の頑張りで達成できそうな数字ということで、ごみ量の目標

750g/人・日の数字に見直しているのも、今回の見直し箇所の重要なところである。

議 長 4年後とか5年後とか、再評価するということを書くこと自体は何の問題もないだろう。今、委員が言われたような、本質的な問題については、やはりできないところもあるかもしれないが、委員からもう少し具体的に検討を書いてほしいという要望があるので、この声をこの中に盛り込んでいく努力は続けてほしい。事情はわかった。

事務局 委員からの指摘については、多分行政の計画を作るたびに言われていることだと思っている。計画には二つの意味があって、一つには単純に考えて、これから先どういうふうにしていくのかというのを裏付けに即した形で、しっかり理論武装して構築して示すということ。これは非常に堅い話になる。もう一つは、今求められているのは、ただその中身を読んだときに具体的に将来こうなりますよと、一般の市民の方に理解いただけるような中身を示すこと。例えば今回市で作った第二次の長期総合計画、こちらの方も相当工夫をしてわかりやすい方法で作っているが、その中で細かなものの目標を決めていけばいいのだが、そのためには相当の労力と、各部署とのその時系列での集計の仕方とか実績のあり方があるので、同時並行でこうとなかなか出せないの、その中では方針を決めるということにとどまっている。今ほど委員から指摘があったように、皆さんの中でイメージが膨らむような形の書き込みの仕方をしていくことについては、これから検討させてもらいたい。もう一つの分析については、これは委員の皆様に見てもらった後、市民の皆様に見てもらい、当然国や県の方にも見てもらう。今後、何らかの事業を田村市内で行っていく際に、この計画をもって説明していく必要があるの、ある程度の書き込みが必要だということについては理解をいただきたいと思う。

委 員 分析結果は、別紙資料でやってもいいのではないか。この本文の中に入れなくても別にいいのではないか。別紙資料編として、これが本件の根拠だとなつければいいだけの話だと思う。

委 員 最終的にはこの審議会としては、現状こういう現状だから、こうしていこうみたいな、何か方向性を示す計画書にして、できる、できないと断言することや予算を取ることを前提にするとかではなくて、そういう形でまとめておいたらいいいかなと思う。

一番重要な部分は、具体的な方策、こういう現状で、今後このような見通しだから、審議会としては理想的にはこういうことをやっていったらどうか、しましょ

う。という方向の文言でくくる。ここのところをもう少し厚くして、例えば 10 年未満の計画であるのであれば、仮に 2 年間ぐらいの刻みの中で、こことここは 2 年かけてやる。ここはずっと 10 年まで毎年やるというようなものが明確にできるような、いわゆる年次カレンダーみたいなもの、そういうものをきちっと明確にすればいいのかなと思う。

読ませてもらった印象としては、やっぱり対策は薄い感じがする。例えば「ごみの発生抑制に向けた啓発を実施する」とは具体的に何でやるのというのを、もっと市民が見たときにわかるような表現で、最終的にはその啓発活動の着地点をこうだというのが明らかになるようにすれば良いのではないか。ごみを行政の方で考えると、入ってきたものをどうするかに重みをおいて作られると思うが、ごみを抑制するという、排出量を減らすことだと思う。だから、田村市の一番の目玉は、環境計画から見れば入口、入ってくる部分をこういう形で抑えて行くというのをより明確にした方がいいと思う。

アンケート結果を見たときに、20 代 30 代の人たちの意識と、ごみの分別を出してる、関わっている高齢者との意識が違うから乖離してる。関わってる人はやっぱり環境に対する関心が高い。任せてる人たちは全く関係ないという現状では、いつまでも減らないと思う。

だから、小学生とか若い子たちをどうしていくかっていうところを、より明確にあげる。田村市の中にある組織、現に委嘱されている委員を連携して、この委員になれば具体的に推進員になるような形で展開することなど、より深く明確にした方がいいのかなと思う。

議長 前半に言われた具体的なことは、おそらくこの半年で決められないことだろう。例えば、コラムというのがあって、よそではこんなことやってますよと言って、我々もこんなことを目指しますよと、より良いイメージがつくように書いた方がいいのではないか。要するに、何かやると言った時、実はノーアイデアじゃないかというよりは、私達はこういうことを調べていて、こういうのもいいね、というコラムという形で入れるのもあると思う。

また、他のところと比べて書いてないことがあって、それはお金の問題である。処理手数料がいくらだとか、そもそもこのごみ全体を処理するためにいくらなのかというようなお金について書いてないなという印象があった。

お金は重要だから、それがあると、市民の人は、よりそこに注目するのかなと思う。ぜひ、他の市町村の事例を見てお金の表現について、参考にしてもらえればと思う。

委員 アンケートを見て思ったが、市民がすごく敏感なのはやっぱりお金なんで、最終的に自分の財布からいくら出すかということだと思う。何にコメントしているの

が多いかという点、ごみ袋の問題に多い。結論から言うと高いというイメージである。その設定は、決して懐に入れようという意識で設定されることはないんだと思う。各家庭のごみを処理していくために、施設維持したり、人件費にこれぐらいかかったり、だからこうなんだというところがわからないからだと思う。簡単に粗大ごみってお金払って大変だ。回数増やしてくれ。とか載っているが、その裏側の部分を全く知らないからだと思う。後半、啓発していくツールを見ると、ホームページがあるが、毎月の市政だよりの中に定期的にそういうページをきちんと位置付けて、常に今月はこれだけのごみが入ってきて、ごみの袋これだけ売れてるということを明らかにする。年間の人件費これだけかかっているとか、外部委託にこれだけかかっているという市全体の決算報告書みたいな、より市民がみて納得するような形のデータを開示すべきだと思う。

議長 収集費用いくら、処理費用いくらって書いてある自治体も結構多い。これは情報提供であるが、田村市のごみ袋は福島県内では安い方である。有料化の中では、頑張っていると思う。もう10枚600円が当たり前の時代になっている。田村市は早くから取り組んだ分、値段がなかなか上げられなくて、最近取り組んだところは、計算して600円となっているので、ここは昔からの経緯で抑えて頑張っているような地域である。

事務局 しかも1回値下げしてる。500円から350円で値下げしている。

委員 やっぱりそういうのも出すべきだと思う。例えば、県内全部の平均だとか。同じこの資料の中にあった今後の見通しの中で、福島県内と同じような環境に置かれてる市の状況を参考にしたとあるが、具体的にどこの市だか教えてもらえればと思う。そういうところの例を出しながら、もう目で見える形で提示したほうがいいと思う。

委員 議長が言われたように、今こうやってる、今こういう現状こういう行為から、これを減らせば抑制してここまで下げれば、金額下がるとやれば、却ってインパクトがあるんじゃないか。

委員 毎月グラフで見て、こういうふうに出ていくという、予想グラフにどれだけ近づいてきたか、逆に上がったなど常に知らせていくことも大事じゃないか。

事務局 指摘の件について、目立たなかったのだと反省するが、市政だよりで去年の8月から今月の1人当たりのごみの排出量を明示している。なかなか、お金でもって今月いくらだったとの精算が難しいので、ごみ1人当たりいくらかかるというの

は、年に1回しか出してない。ありがたい指摘をもらったので、もっと目立つ形で、これだけ市の方でも負担してるという部分を示す。ゴミ袋で入ってくるお金は、全体の処理量の5%にも満たないぐらいである。始まったときは、3分の1ぐらい負担してもらおうということから500円設定で始まったが、当時ダイオキシンの規制などゴミ減量化は急務であり何とか市民の理解をもらった。見直す機会は、広報等で設けていきたいと思う。

事務局 ごみ処理経費については、計画の38ページに1人1日あたりのごみ処理経費とごみ1tあたりの経費を載せている。大きい工事があればそのまま反映されていて、収集にかかっているもの以外も含まれているが、もう少しこの辺に肉付けしたりすることで示すよう考えている。

委員 福島県の平均値の金額はわかるのか。  
例えば福島県のこれを数値根拠とする、同じようなその条件状況に置かれてる市を参考にしたとあるが、そういうところを参考にして、そこと金額を比べるというのはできないのか。類似自治体は、どこを参考にしたのか。

事務局 環境省の分析ツールを使っているんで、相互に比べることはできる。  
県内自治体の位置付けとか、田村市は、福島県の他自治体の中でどのようになっているかも出せる。その辺は肉付け可能だと思う。環境省のまとめが2年前なので、2年前のデータになるが、掲載する方向で検討する。

委員 こういうところに出すときに、表示の仕方を変えないと、市民はなかなか納得しない、理解できない。例えば100%単位よりは、具体的に何円だよと。国の平均は何円で、田村市は何円だと言われた方がイメージ付きやすい。

委員 構成をもう1回見て、資料編に回した方がいいとか、本文に入れた方がいいとか見直してほしい。

議長 そのことに関しては、行政的にこの書きぶりでない上に説明ができないというところもある。概要版っていうのが作られる。おそらくその概要版で、これがというのを出してくれる。

事務局 市民にわかりやすいようにということで、A3判1枚のわかりやすい概要版を予定している。そちらを市民に、周知活動で配布していきたいと思う。

議長 概要版を読んで、もっと詳しく見たいなっていう人が一般廃棄物処理基本計画を

見る。むしろ市民の方に渡せるのは、概要版である。そういう意味ではメリハリのついた概要版ができると思う。だいぶ本質的な議論もあり、すぐに改善できないと思うので、次回に向けて、事務局は課題宿題が大変多いが、ぜひよろしくお願ひしたい。

委員 やっぱり一番視野においてほしいのは、ごみ発生の入口を抑制すること。具体的に「幅広い世代が参加できる環境学習を設ける」とあるが分からない。具体的に何をやるかが必要である。環境学習の場を設けるなら、いつどこで誰がやるの？ というような方向で。これ見ると、収集回数を増やす、価格を見ながら書くと、ごみ袋も少し安くなるかと思われるので、ちょっと危険だと思う。粗大ごみを今度集め始まってくれるんだ。あの時に書いたアンケートの結果が反映されたって、書いた人は喜ぶだろうが、後で苦しくないようにしなければならぬ。そういう意味では、入口をずっと窄めるための方策というのは、いっぱい出てくると思う。精神的なものも含めて。

委員 先ほどの概要版、例えば子ども向けや小学生向けがあると良い。昔は、自宅でごみを燃やすような環境だったため、今も結構苦労して、分別を意識しないとできない部分がある。種まきを早いうちにしておけば、すんなり当たり前のことになると感じるので、概要版を子ども用や簡単にアプリで使えるように、種まきができるようなシステムがあれば良いと思う。

議長 概要版さえできれば、有志とかで作れるものかもしれない。NPO 法人などと連携してやってもらうとか、あまり型式にはまらないでやった方が良いのではないか。ぜひそれを支援するようにお願ひしたい。

委員 それを作るときに、小学生や中学生を巻き込めばいいと思う。

委員 子どもたちは、すごい思考が柔軟だと思う。

委員 いろいろハードルがあると思うが。  
あと、補助制度で生ごみ処理機があるが、それにエネルギーをかけるのであれば意味がないと思う。エネルギーのかかるものを導入するのは問題だと思う。温暖化対策に逆向してると思う。集合住宅の人たちが選択できないようなものがあったりするのも問題だと思う。そのような住環境であっても使えるというようなものも含めて検討が必要。当然、うちはもう無理だなんて思うようなものを市民に提示するっていうのはNGである。



委員 この基本計画読ませてもらったが、あまりにも膨大な量で、非常に心が折れそうになりながら見させてもらった。やっぱり、この概要版というのは非常に期待が大きい。中で「小学生に対する環境活動も今後考える」とあったが、小学生は非常に意識が高い。ぜひ市とタイアップして、小中学生を巻き込んでやってもらえると、だんだんと意識が変わっていくのかなと思う。

議長 皆さん、これを見て大変不満があるようである。だが、行政事務的にはこれは必要なものなので、次の第3回は概要を出してもらい、その内容を協議したほうが良いだろう。概要版ありきで、それがどうなってるかというときに参考書としてみる。概要版を出してもらうことが、次回の議事運営を円滑にするポイントだと思う。

委員 具体的に次の概要版に出てくるかわからないが、監視パトロールがあるが、その活動が意外とわかっていない。この監視パトロールを行政の人たちがやるのは大変だと思う。行政区の人たちを委嘱して、見回りさせるというのも一つの方策だと思う。

事務局 今は県の制度で、産業廃棄物の不法投棄監視員で、旧町村ごとにそれぞれ1人委嘱され、月4回監視してもらっている。市の職員も随時、庁舎外に出ることがあるので、そこで監視や情報提供をもらうことはある。

委員 道路沿いのごみの問題も随分上がっている。多分、市民はそっちの方も意識している。

議長 委員からあった意見について精査してもらい、この基本計画案をより充実することと、概要版を次回の審議会ですとまとめたと思う。

#### 4 その他

(1) 今後の審議会開催予定、パブリックコメントについて

○令和6年2月初旬～下旬 パブリックコメントの実施

○令和6年3月 第3回田村市環境審議会

・パブリックコメントの結果報告

・パブリックコメントを反映した一般廃棄物処理基本計画の審議

○令和6年3月 一般廃棄物処理基本計画の市長答申（会長）

(2) 施設見学について

(3) その他

○質疑

委員 パブリックコメントで公表する資料は何か？  
事務局 概要版、資料編を除く一般廃棄物処理基本計画（案）のごみ処理編と生活排水処理編になる。

委員 今回の委員の意見を踏まえて一般廃棄物処理基本計画（案）を見直しするということだが、パブリックコメントをする前に、各委員にその案がもらえるのか？

事務局 公表と同時に送付するようになる。パブリックコメントの意見反映と一緒に、委員の意見を反映するという形になると思う。

5 閉会